

ジュニア世界選手権 (JWOC2001) 報告

SQUAD 強化部 尾上秀雄

今年の JWOC はハンガリーのミシュコルツ市で7月9日～15日に開催された。日本からは男女各6名の代表選手と4名のオフィシャルの計16名が遠征し、33ヶ国からの300名近い選手を相手に戦った。ここでは各レースの経過および結果と関連トピックスを報告する。

1. トレーニングキャンプ

経験年数の少ない日本のジュニア選手にとって数多くの異なるタイプのトレインを経験することの意義は大きい。大半の人にとって初めての海外トレインになるトレキャンはそういう意味で今後も欠かすことのできないプログラムだろう。今年はこの時期に用意された大会がなかったため、すべてオフィシャルが準備する必要があった。やりたいことが沢山ある反面、本番直前で疲れを残さないような

配慮も必要のため次のようなメニューとした。このメニューの流れはかなり効果的で今後もこれがベースになるだろう。

- 1日目 レース形式でいきなり走ることによって現地対応のヒントを得る。
- 2日目 初日の結果を元に各自のペースで調整する。
- 3日目 レース形式で再度挑戦してみる。

トレインはカルスト台地で秋吉台のようなドリーネを含む地形であったが、日本人にとってそれ程違和感のないものだった。ライム焼き場や炭焼き場というローカルな特徴物もあった。

2. ショート競技

今年はショートからの競技開始で、日本人選手にとってはいきなり負荷の重いクラシックよりはありがたい順序だった。そうした中で山田がBファイナル進出を果たしたことは今年のチームにとって

嬉しい結果であった。その山田は予選で4.5kmのコースを31分と、トップ比130%のタイムであったにも拘わらず38位とボーダーに近い順位で、近年ますますスピードアップされている世界の状況を思い知らされた。



Bファイナル進出を決めた山田

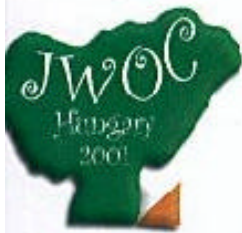
ショート競技予選

<女子>

氏名	順位	タイム	トップ比	コース
B. Holmstrom	1-1	0:25:03	100%	3573m
A-final	1-20	0:29:23	117%	155m
B-final	1-40	0:40:18	161%	12c
浅井千穂	1-43	0:48:43	194%	
櫻井優子	1-45	0:50:39	202%	
K. Nilsson	2-1	0:24:26	100%	3653m
A-final	2-20	0:30:13	124%	160m
B-final	2-40	0:40:47	167%	12c
川島沙耶香	2-43	0:53:37	219%	
石川裕理	2-44	0:53:55	221%	
A. Lapinen	3-1	0:25:15	100%	3590m
A-final	3-20	0:29:34	117%	165m
B-final	3-40	0:39:32	157%	12c
田島聖子	3-42	0:41:58	166%	
澤田留己	3-43	1:22:14	326%	

<男子>

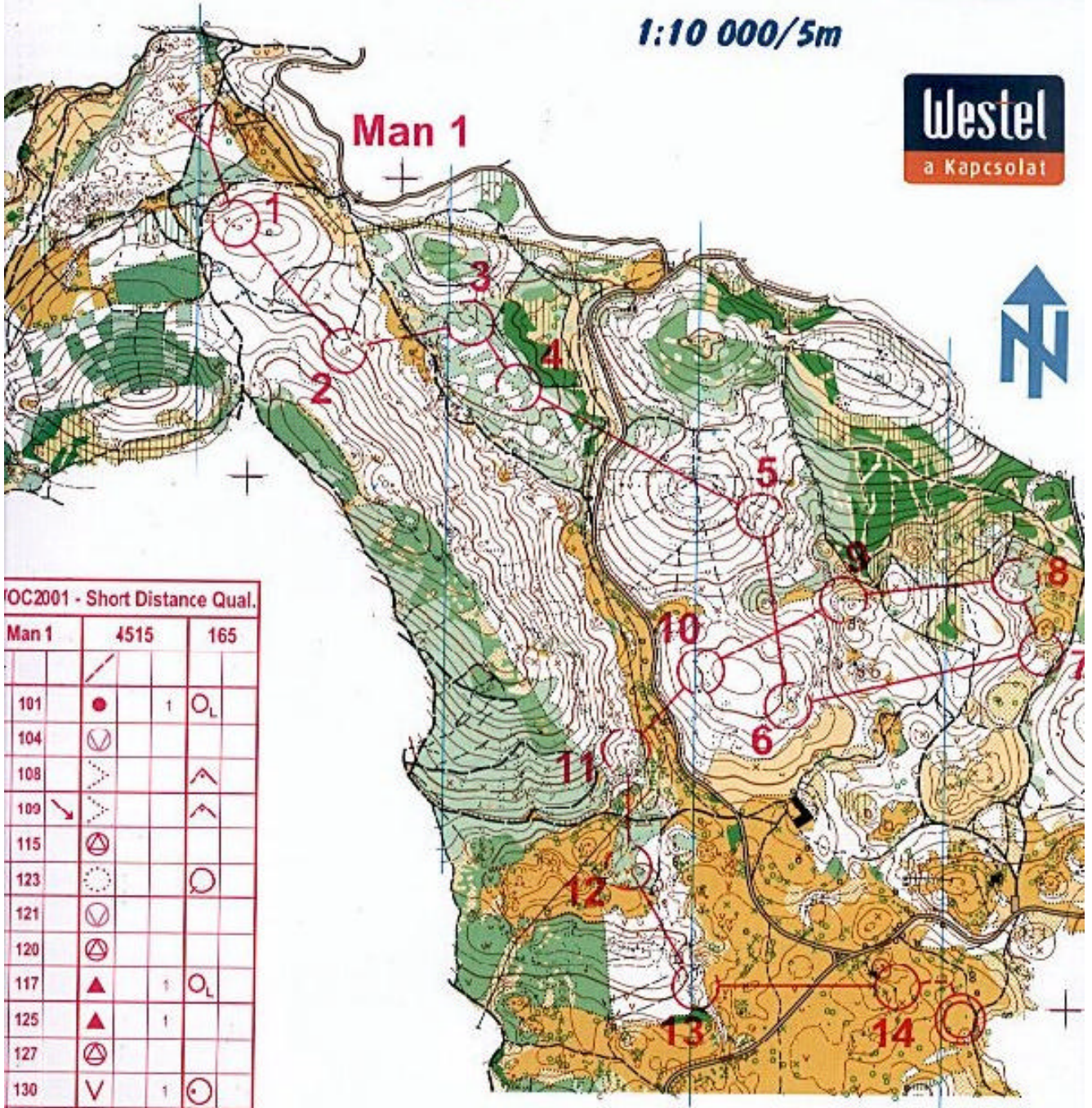
氏名	順位	タイム	トップ比	コース
M. Sirmais	1-1	0:24:06	100%	4515m
A-final	1-20	0:27:20	113%	165m
山田高志	1-38	0:31:23	130%	14c
B-final	1-40	0:31:43	132%	
堀江守弘	1-47	0:36:15	150%	
M. Smola	2-1	0:23:57	100%	4422m
A-final	2-20	0:28:50	120%	170m
B-final	2-40	0:34:29	144%	14c
久野雄介	2-42	0:36:32	153%	
後藤 崇	2-48	0:47:53	200%	
D. Koch	3-1	0:25:50	100%	4544m
A-final	3-20	0:29:23	114%	175m
B-final	3-40	0:34:04	132%	14c
櫻坂 尚	3-49	0:41:25	160%	
北島聡之	3-51	0:50:45	196%	



Junior World Orienteering Championships - 2001
Short Distance - Qualification

Nagymező-Kelet

1:10 000/5m



OC2001 - Short Distance Qual.

Man 1	4515	165
101	●	1 O _L
104	∇	
108	∇	∧
109	∇	∧
115	⊙	
123	⊙	⊙
121	∇	
120	⊙	
117	▲	1 O _L
125	▲	1
127	⊙	
130	∇	1 ⊙
133	∇	
100	▲	0.5 O _L

180

- lime burning
- charcoal burning
- bush
- juniper



山田が3 1分2 3秒で走ってBファイナル進出を決めた男子1組のショート予選コース
位置説明記号の「∇」は「ライム焼き場」で小凹地と類似

男子では堀江と久野が 36 分で 150%程度だった以外は全員気負いが強すぎたのがミスを重ねてしまい、女子も田島がBファイナルまであと2分半と迫った以外は全員200%オーバーのレースに終始した。

それまでの技術レベルから見ればよく頑張ったと言える選手もいたが、世界とのレベル差は如何ともしがたいものだった。

山田は決勝でも同様のコースをほぼ同じタイムで回って 50 位に

入り、まだ高校生ということを考えれば将来への大きな可能性を残したと言えよう。日本人初のAファイナルに挑戦して欲しいものだ。

ショート競技決勝

<女子>

氏名	順位	タイム	トップ比	コース
M. Kauppi	A- 1	0:24:33	100%	3903m
J. Schuh	C- 1	0:36:03	100%	3650m
田島聖子	C- 2	0:40:44	113%	115m
石川裕理	C- 3	0:44:41	124%	11c
浅井千穂	C- 6	0:47:46	133%	
川島沙耶香	C- 7	0:55:58	155%	
澤田留己	C- 8	0:57:52	161%	
櫻井優子	C- 9	0:57:53	161%	

<男子>

氏名	順位	タイム	トップ比	コース
M. Bjugan	A- 1	0:27:08	100%	4808m
A. Khramov	B- 1	0:23:48	100%	4370m
山田高志	B-50	0:31:25	132%	145m
A. De Riz	C- 1	0:27:59	100%	4244m
堀江守弘	C-10	0:34:54	125%	140m
久野雄介	C-17	0:38:16	137%	13c
北島聡之	C-20	0:39:21	141%	
櫻坂 尚	C-23	0:41:50	149%	

3. クラシック競技

今年は男子で山田、女子で田島がトップ比 152%を記録。これは昨年に加藤、番場と全く同じ比率である。2人とも初めてのJWOCとい

うことを考えれば健闘したと言えるが、レース内容を振り返れば140%は見える目標だろう。いずれは130%に近づくことを目標にし

ていて欲しい。そのレベルは男子では80位台に該当し全部で160名程度だからやっと真ん中辺りになる。

クラシック競技

<女子>

氏名	順位	タイム	トップ比	コース
D. Brozkova	1	0:57:35	100%	7470m
P. Satri	2	0:58:05	101%	305m
D. Smolik	3	0:58:28	102%	16c
田島聖子	112	1:27:23	152%	
石川裕理	125	2:07:26	221%	
川島沙耶香	126	2:15:17	235%	
浅井千穂	127	2:21:00	245%	
櫻井優子	128	2:38:17	275%	
澤田留己	P1	1:49:32	190%	

<男子>

氏名	順位	タイム	トップ比	コース
A. Khramov	1	1:05:19	100%	10640m
M. Bostrom	2	1:06:06	101%	420m
M. Smola	3	1:06:10	101%	25c
山田高志	136	1:39:46	153%	
堀江守弘	148	1:55:34	177%	
北島聡之	152	1:59:04	182%	
櫻坂 尚	P1	1:49:01	167%	
久野雄介	P1	1:49:41	168%	
後藤 崇	P1	2:05:15	192%	

今年はせっかく良いレースをしながらペナになった選手が相次いだ。いずれも隣接ポストやポスト飛ばしであるが、これにはオフィシャル側の注意の喚起が今一步不足していたかもしれないと反省している。日本ではCCでも電子パンチでも位置説明が必ず配布・公開されているが、今回のJWOCでは全コントロールの位置説明が前日に公開されただけだった。そのため長丁場のクラシックで集中力が欠けたときにミスが出てしまった

のではないかと想像する。日本選手のそういう状態とは無関係に世界のトップは男子がキロ6分強、女子が7分半で走ってしまう。そして2位以下も秒差の選手が続くのが現実だ。

終始安定した走りを見せた田島



4. リレー競技

今年のリレーメンバーと走順の決定方法を今までと変えた。例年はリレー直前の日にそれまでのレースの結果なども参考に決定していたのだが、他のレースへの影響やリレーに対する心の準備の問題が指摘されたため、今年はコーチと相談してトレキャン最終日に決定した。これが適切であったかどうかは選手の感想も聞いてみないとわからないが一つの方向は示せたと思う。

	1走	2走	3走
男子Aチーム	山田	櫻坂	久野
男子Bチーム	堀江	北島	後藤
女子Aチーム	田島	石川	澤田
女子Bチーム	川島	櫻井	浅井

リレーに臨むに当たって前夜のミーティングでは全員にチーム目標・個人目標を紹介してもらった。男子Aは「どこかの国と競り合うレースを」を目標に、それぞれやるべきことをやるということ。男子Bは具体的な国名をいくつか挙げて「どの国が1つでも食う」ということを目標に、その前提とし

て「当然、Aチームを負かして」という力強い発言があった。

女子Aは特定の相手を意識するというのではなく、個人個人が「65分をpushし、できれば60分で走って貯金を作る」というものだった。女子Bは「ウム回避&完走」だ。この話し合いは選手が自主的に話し合って決めたもので相互にチーム目標が共有できて良かったと思う。

リレー競技

<女子>

氏名	走順	タイム	タイム計	トップ比
Sweden	1		1:53:42	100%
Czech	2		1:55:48	102%
Finland	3		1:56:45	103%
田島聖子	A-1	0:55:29		
石川裕理	A-2	1:03:52		
澤田留己	A-3	1:11:17	3:10:38	168%
川島沙耶香	B-1	1:16:38		
櫻井優子	B-2	1:53:53		
浅井千穂	B-3	1:08:44	4:19:15	228%

<男子>

氏名	走順	タイム	タイム計	トップ比
Czech	1		2:16:10	100%
Poland	2		2:17:34	101%
Sweden	3		2:21:06	104%
堀江守弘	B-1	1:00:48		
北島聡之	B-2	1:12:44		
後藤 崇	B-3	1:14:28	3:28:00	153%
山田高志	A-1	1:04:10		
櫻坂 尚	A-2	1:29:25		
久野雄介	A-3	1:12:59	3:46:34	166%

レースはBチーム1走の堀江の快走で始まった。リレー1走の特質をうまく生かしてAチーム1走の山田に3分以上の差を付けてゴールした。Bチーム2走の北島も予定通りの時間で3走の後藤につなぎ、そのまま櫻坂、久野のAチームより先にゴールした。見事にBチームがAチームに勝ちそれが日本チームの公式記録になった。国別順位では28位である。

一方の女子はAチーム1走の田島が予想以上に早いタイムで帰って来て2走以降に元気を与える。

しかし2走の石川が帰って来た時は既に女子のウイニングランが済んだ後だった。3走澤田が締めくくって女子はAチームが公式記録となった。国別順位は24位である。Bチームは川島、櫻井と何とか粘って浅井につなぎウム回避に成功した。

最後に久野と浅井が好タイムで帰ってきてJWOC2001は終わった。選手たちがこの経験をどう生かすかはこれから各人に託されることになる。目標を持って挑戦しつづければ必ず進歩がある。それを信

じて続けて欲しい。秋以降に活躍する選手達を見るのがオフィシャルの願いでもあり楽しみでもあるのだ。

JWOCの選手たちの遠征に際してはOB、OGの方々を始め、本当に多くの人たちのご協力・ご支援を頂いた。この場を借りてお礼申し上げますと共に今後もこの選手たちの活躍を是非見守ってあげて欲しい。

5. アジア圏からの参加

今年アジア圏から日本以外では初めて韓国が参加した。選手2名、オフィシャル1名の参加だがその1人は静岡大学に在籍している李であり、本国への粘り強い交渉の結果韓国代表としての参加が

実現した。言葉の問題もあったので、本人の希望も入れて日本チームのトレキャンおよび夜のミーティングに参加してもらった。日本チームにとっても良い刺激になったことと思う。韓国は来年は是非とも3人の選手を派遣してリレーを組みたいと言っており、香港も

また同様の意向を示している。同じアジア圏で輪が広がることは2005年に向けても望ましいことなので、可能な範囲で連携を取っていききたい。

6 . ジュニアの強化に向けて

世界の場に出て行くと大学生中心の日本選手の限界を感じざるを得ない。JWOC が日本におけるジュニア強化に寄与しているのは間違いないが、次の発展を期待するにはさらなる工夫が必要である。

これはまだ私案であるが、いずれにしてもレベルアップ途上にある若手が対象なので、体力・走力に勝る選手を1人くらい連れて行

っても良いかなと思う。小手先のオリエン技術だけでは到底太刀打ちできない世界がそこにあるからだ。

もう一つは競技者マインドだ。これが希薄だと準備も疎かになるし本番ではメンタル面で弱さを露呈する。この2つを備えた素材をJWOC に複数回参加できる年齢層に求めていかないとこれからの飛

躍は難しいと感じた。それにはモチベーションを高める工夫も必要であろう。幸い山田はあと3回は出られる年齢なので、一つの試金石としてさらに高い目標に挑戦してお手本となって欲しい。その後、に続く素材を開拓するのは我々の役割だ。

